

大島島民アンケート

大島の復興に向けた島民アンケート調査結果の報告会が2月10日に行われました。15歳以上の2774人に配布し1749人の回答で回答率は63%でした。

アンケートの中から防潮堤計画と防災減災対策を中心に島民の考えを報告し、防災に関する疑問と意見を述べたいと思います。

防潮堤計画に対しクロス集計の結果、現行計画案支持9%、見直しを希望64%、わからない27%、と回答されました。つまり現行計画案に9割の人が賛成をしていないのです。

どの防災減災対策を優先すべきか、11項目から3項目を選択する問では、避難路22%、物資食料備蓄19%、緊急放送システム17%の順で回答があり、防潮堤は11%でした。

集計欄に『「警報を聞いて自分で逃げて、その後しばらくは自分で生き延びる」と覚悟している人が多いと解釈出来る』とコメントされています。

この2項目の結果からは、島民にとつていま必要なのは防潮堤ではなく、震災時の正確な情報であり、物資食料確保なのです、

震災から2年もたとうと

しているのに、生活基盤である漁港修復や災害者用公営住宅の建設はほとんど進まず、生命を守る避難路はまったく示されておられません。なぜそれらを先に造らず、防潮堤を優先するのですか。

大島の財産の多くは海にあります。どんな高い防潮堤を造っても、海の中の海産物、海の上の筏や船は守れません。

アンケート項目の何を残したいかでは「亀山」「小田の浜」「八鳴浜」が順に多く、イメージする言葉として「亀山からの景色」「海の幸」「故郷」「緑の真珠」でいずれも10%以上、今後どんな島であって欲しいかの項目では「海や自然環境を残した島」「高齢者が安心して生活滞在できる福祉の島」が20%以上でした。そして現在今後もつとも心配なこととして「人口流失、少子高齢化」を合計30%以上の方が挙げています。

防潮堤を造れば残したいものイメージするものを守れますか。人口流出、少子高齢化を防げますか。防潮堤を造れば逆に、水産業も観光業も衰退の一途をたどるのは目に見えており、生活の場がなくなれば、人口流出と少子高齢化が増々加速すると思います。

防潮堤計画は知らない

うちに着々と進み、建設用地買収の直前まできています。その中には震災をまぬがれた家を壊し、海を20m先まで埋めてまで造ろうと計画されています。

つまり、造ることのみが目的で「住民の生活を壊し、豊かな海を壊し、きれいな自然景観を壊しても構わない」と言っているようなものです。県や市はアンケートに示された住民の意向を汲み取り、計画を見直すべきです。それに防潮堤建設には住民の同意が必要なはずです。

防潮堤建設にかける数十億数百億の予算があれば、若い人が働けて定住する場所や、海と自然を活かし漁業と観光を復活させ、さらに発展させることが出来ると思います。30年度には橋が開通する予定ですが、その橋は出て行く人の為ではなく、定住する若い人が入って来る為の橋でなければなりません。

しかしこのまま防潮堤だけが造られ、大島が発展する計画が立てられなければ、若い人や子供のいない、独居老人の島になります。島民が一番心配している「人口流出、少子高齢化」を防ぐために、行政も島民も一体となり、考え行動して行くべきだと思います。

大島中学校校仮設熊谷雅裕